

赤ん坊と牧羊犬に闘つて

真野 美千子

初めて繁殖をした我が家のラブラドルのラブ（呼名）は、1歳8か月で1回目のシーズンを迎えました。大型犬は発育がおそいため一般的には、1回目のシーズンは見のがしますが、ラブは1歳を過ぎて発育期は過ぎていきましたので、結婚させることになり、交配して60日目に12頭の子犬を産みました。母犬のラブはイニローで、お嬢さんはブラックですが、子犬は、ブラックとイニローに半分ずつ別れ、どうしてイニローの母犬からブラックの子犬が生まれるのか、モチが出ないのかなどと、近所の人に質問責めにあつたことを思い出します。社と牝の割合もほぼ半分ずつでした。

6月の陽気はまるで夏のような暑い日があり、そんな日はむしろ日が、暑かろうとしていた夕方頃からお産が始まり、全部産み終わったのは夜半近くだったと思います。産み終わってみるとその数の多いのなんの、本人も驚いたことでしょうが、私の家でも、産が抜けるほどといつてもオーバーではないくらいのものでした。

この頃の私は、無知なほど繁殖に関する知識にうすく、そもそも繁殖を試みるきっかけになつたのは、大好きで顔見知りの年配のおばさんと立ち話をしているとき、子供のいる女性と子供のいない女性と、どちらが懐か得か云々と、たわいもない会話のなかで、

犬は子供を育てている時が一番美しく、三気感のある奥い

頭をしてみえるとか「一犬にだつて同じようなこと言

えるかもね」と、たつたこれだけの会話がきっかけとなり繁殖してみようと思ひたつたのですが、12頭の子犬が生まれる

とは予測もしていませんでした。10ヶのオッパイを奪い合う

凄じい生存競争、私はと言え、2時間置きの夜も眠れない程

の、母乳、母乳でへとへとなのに全部の子犬達のお腹を十分満た

すのに息をつく暇もないのです。母犬は、食べても食べても

パイが、すぐ吸いつくされやつれてみすばらしく、美しく充実感

溢れる表情などどこにもなく、こんな想いをさせるのなら交配な

ど「一」と言う後悔ばかりしてしまいました。そんな中で、母犬も

私も未熟な為子犬を母犬の下駄きにして窒息死させたりのアク

シデント等もあり12頭全部を育てられなかつたのは残念でした。

が、他の子犬は無事スクスクと大きくなり本格的な夏を迎える頃

に、それぞれの飼主の元へと縁組が決まり離れていきました。

その間、出産から子育てに関しての、感動、感動の日々は、現

在の繁殖に於ても、初心に返つた精神で、いつまでもお手本とな

り、この経験を大切な踏台にしてみました。この頃子犬1頭1頭を手放す度に涙していたことは、今でも心無くなりましたが、その分子犬を産しての心豊かな愛犬家の方とのお付き合いを心から大切にしていける楽しみに変わったことで別の喜びと、犬に対する感謝を一層深めました。子育てに大奮闘した母犬ラブは、最後の子犬と離れた頃から心身共にみるみる変わり、性格はすっか

り落ち着き払い毛艶はもとより身体がしつとりと美しくなり、何よりも顔の表情が何とも言えない優しい表情をみせ、俗に言うイイ女になり、しばし惚れ惚れと見つめたものです。

牡は交配すると男らしくなると言いますし、牝は女らしく美しくなり、延々と引き継がれてゆく祖先の血と、牡がいて牝がいて、両方の遺伝子を微妙に受け継いで生まれてくる1頭1頭の子犬達の命の尊き、そして物云わぬけなげな動物が教えてくれるものの素晴らしさを自覚したとき、人間として大切なものは何か、確かなものを悟ったような気がします。私にとって繁殖とは、常に命を尊び小さな命をもって結ばれる、人と人との豊かな繋がりをお大切にしていくことになりました。こんなことをしみじみと考えさせてくれることを、教えてくれたラブが腎盂腎炎と云う病気で4才半の若さで死んでしまったのは昨年8月の暑い日でした。

最良の友として情愛を注いできただけに心の中にあいた大きな穴を埋めるには、まだ時間がかかりそうです。ラブちゃんに教えてくれた大きな大きな心を生かして、これからも微力ながら、ブラドールの犬質向上と発展に力を注いでいきたい積りです。



生後50日の仔犬の足型